

埼玉県 退職校長会

会報

題字・新井俊一
第180号
令和6年1月

漸進

埼玉県退職校長会会長 新井 俊一



本年度より、会長という重責を担うことになりました。『「漸進」く物事を少しずつ進行させる』の心構えを持ち時代の進展を捉えつつ、会の運営に当たってまいります。

本年度中に取り組みました事業の進捗状況を報告いたします。

新入会員勧誘の案内配布

本年度当初より「定年制延長に伴う入会時期の統一見解を早く出してほしい」という声を受け、10月17日の理事会で、「入会のご案内

内」を配布いたしました。ここに示した同一歩調で入会の勧誘を進められるようをお願いいたします。HPの更なる充実

人間支部は11班、会員数736名の本会最大支部。

支部長を中心にして、「HP作成担当者会」を開催。HP担当の県本部幹事の熱心な指導のお陰で、全11班のHPが揃いました。

会員名簿の作成

新たに「会員名簿事務担当者会」を立ち上げ、作成準備に入りました。個人情報保護と経費削減の両面から現在検討中ですが、年度末までに結論を出します。「彩の国教育の日」協賛現退校長支部別教育推進協議会

1	2	巻頭言
3	9	支部別教育推進協議会報告
9	10	理事会報告
10	11	関ブ口報告
11	16	一人一言
17	17	現・退校長会役員報告
18	18	研究協議会報告
19	19	囲碁・ゴルフ大会
20	19	長寿会員への寿詞贈呈
20	20	文芸・編集後記

埼玉県が誇る本協議会が全10支部で開催されました。どの会場も対面の喜びに満ち充実していたと報告を受けました。

学びと生きがい



老いて学べば則ち死して朽ちず（佐藤一斎）

退職後をどう生きるか。人それぞれの思いがあるだろうが、心身ともに健康で生きがいのある日々を過ごせれば、これほどの幸福はないだろう。そのため大事なこと、節度ある生活を送ること、いつまでも

県への要望書提出

9月7日に、埼玉県知事、埼玉県会議長、埼玉県教育委員会教育長へ「埼玉県教育の振興に関する要望書」を提出しました。今後「教員の働き方改革」や「教員のなり手不足の解消」に向けた県の施策に期待したいと思えます。

比企支部長 島田 弘

学ぶ心を持つて生きることだと私は思う。

生涯学習という言葉が登場しても何十年になるだろうか。まさに時代は激しく変化して、情報機器の操作など、必要に迫られて学ぶことも増えている。それも大切なことだが、生きがいを求めて趣味や教養の活動にいそしむことも、豊かな人生の実現におおいに資することである。

私は、退職時の校長会会報に「これからは世の中の

善いもの美しいものを見つけて旅をしたい」と書いた。実際に、海外を始め、史跡巡りや観劇など頻繁に出かけ、素晴らしい自然や文化に度々瞠目させられた。

そして、今も続けているのが、弓道と俳句である。風薫る道場で天地左右に心身を伸ばし、弦音とともに矢を放てば、その爽快感は無類である。また、俳句は辞書を友として推敲する時間も充実し、作品を評価しあう句会もまた楽しい。

地域や行政から頼まれた仕事もあるが、そこで関わる様々な年齢や職業の人たちとの触れ合いの中で、違う考え、違う世界を見て、学ぶことも多い。

第二の人生は本当に大切な日々であって、それは決して余生などではない。そして私は今、本会の事業が会員の生涯学習の取組みに少しでも役立てばと心から願っているのである。